



日本語学会 第167回大会報告

発表者: 宮川 寛人 (東京外国語大学大学院博士前期課程)

本日の構成

1. 第167回大会の概要

2. 発表内容のご紹介

2.1. 今西 一太「アミ語は本当に能格言語なのか」 (A-4)

2.2. 言語類型論の諸問題に対する帰納的アプローチ
– 『語学研究所論集』特集データを活用して– (W-4)

企画者・司会: 風間 伸次郎 コメントータ: 山本 恭裕

発表者: 岡本 進, 風間 伸次郎, 小林 剛土, 小林 颯

3. 次回 (第168回) の言語学会

第167回大会の概要

- ▶ 期日: 2023年11月11日 (土) ・ 12日 (日)
- ▶ 会場: 同志社大学 京田辺キャンパス

- 1日目:
 - ・ 口頭発表: A～D会場, 計20の発表
 - ・ ポスター発表: PA～PC会場, 計42の発表
- 2日目:
 - ・ ワークショップ: A～D会場, 計4テーマ・15セッション
 - ・ 公開シンポジウム: 「「語」とは何か?— その多面性を探る」

第167回大会の概要

- 2023年度の論文賞: 過去2年分の『言語研究』における特に優れた研究

- ・ **諸隈 夕子** [国立国語研究所非常勤研究員]

「ケチュア語アヤクーチョ方言の示差的目的語表示と情報構造」

- 前回 (第166回) の大会発表賞: 大会における優れた発表 (ポスターを含む)

- ・ **有賀 照道** (共同: 松原 理佐) [東京大学総合文化研究科]

「日本語アクセントが母音の長短の知覚に与えるトップダウン効果」

- ・ **田中 皓也** [東京外国語大学博士前期課程]

「意志性によるビルマ語動詞の分類」

「アミ語は本当に能格言語なのか」

今西 一太 [株式会社エス・アイ代表取締役] imanishik923@gmail.com

▶ あらすじ

*アミ語では、動作主態と被動者態がどちらも形態的に有標である (フィリピン型言語)。このタイプの言語について、「能格性を持つ」という研究と「能格性を持つというべきでない」という研究とがあり、見解の一致がない。そこで、先行研究に依って能格性・対格性のプロトタイプを定義し、アミ語の位置について検討すると、アミ語が能格性と対格性のちょうど中間の性質を呈していることが分かった。

*アミ語・・・アミ語は、オーストロネシア語族に属し、台湾の東部海岸沿いで話されている。民族としてのアミ人は15万人～20万人いるが、40代以下の世代は流暢なアミ語話者でなく、実際のアミ語母語話者は民族数の半分以下である。(以上、当該発表脚注1を要約)

「アミ語は本当に能格言語なのか」

今西 一太 [株式会社エス・アイ代表取締役] imanishik923@gmail.com

▶ アミ語は能格言語であるという主張

(2) a. Mi-patay=to kako to=dadipis
動作主態-死=完了 1単主 対=ゴキブリ

「私はゴキブリを殺しました」

b. Ma-patay=to=ako ko=dadipis
被動者態-死=完了=1単属 主=ゴキブリ

「私はゴキブリを殺しました」

c. R<om>akat kako
歩く<OM> 1単主

「私は歩いています」

「アミ語は本当に能格言語なのか」

今西 一太 [株式会社エス・アイ代表取締役] imanishik923@gmail.com

▶ アミ語は能格言語であるという主張

(2) a. **Mi**-patay=to kako to=dadipis
動作主態-死=完了 1単主 対=ゴキブリ

「私はゴキブリを殺しました」

b. **Ma**-patay=to=ako ko=dadipis
被動者態-死=完了=1単属 主=ゴキブリ

「私はゴキブリを殺しました」

c. R<om>akat kako
歩く<OM> 1単主

「私は歩いています」

どちらの動詞にも接辞 mi-, ma- が付加されており、一見して形態的な有標・無標の関係が明らかでない。

「アミ語は本当に能格言語なのか」

今西 一太 [株式会社エス・アイ代表取締役] imanishik923@gmail.com

▶ アミ語は能格言語であるという主張

Wu (2006) は、被動者態が無標の他動詞文で、動作主態は逆受動であり、**アミ語は能格性を持つ**と主張している。

Wu (2006) *Verb classification, case marking, and grammatical relation in Amis*. The State University of New York at Buffalo, PhD thesis.

「アミ語は本当に能格言語なのか」

今西 一太 [株式会社エス・アイ代表取締役] imanishik923@gmail.com

▶ アミ語は能格言語であるという主張

■ Wu (2006) の被動者態と動作主態の有標性の比較

・ 4つの観点: 動詞の形態, 道具焦点, 格, 文法関係

:: **動詞の形態:** どちらも形態的に有標 → 両者ともに無標のパターン

「アミ語は本当に能格言語なのか」

今西 一太 [株式会社エス・アイ代表取締役] imanishik923@gmail.com

▶ アミ語は能格言語であるという主張

■ Wu (2006) の被動者態と動作主態の有標性の比較

・ 4つの観点: 動詞の形態, 道具焦点, 格, 文法関係

:: **道具焦点:** (3) のような道具焦点 (態の一種) sa- の構文が被動者態と共通

(3) Sa-pi-patay **no=mato'asay** to='oner ko=sapaiyo no='edo (Wu 2006: 347)

sa-pi-死 **属=年寄り** 対=蛇 主=薬 属=ネズミ

「**老人が**蛇を殺す道具は殺鼠剤だ／**老人は**殺鼠剤で蛇を殺す」

「アミ語は本当に能格言語なのか」

今西 一太 [株式会社エス・アイ代表取締役] imanishik923@gmail.com

▶ アミ語は能格言語であるという主張

■ Wu (2006) の被動者態と動作主態の有標性の比較

・ 4つの観点: 動詞の形態, 道具焦点, 格, 文法関係

:: **格**: 接語 to= は, 動作主態の構文において被動者を示すのに使われる (4) ほか, 時間などの付加語的な語句を表すのにも用いられる (5) → 動作主態は実質的に自動詞文で逆受動態

(4) Mi-patay=to kako **to**=dadipis (Wu 2006: 358)

動作主態-死=完了 1単主 **対**=ゴキブリ

「私はゴキブリを殺しました」

「アミ語は本当に能格言語なのか」

今西 一太 [株式会社エス・アイ代表取締役] imanishik923@gmail.com

▶ アミ語は能格言語であるという主張

■ Wu (2006) の被動者態と動作主態の有標性の比較

・ 4つの観点: 動詞の形態, 道具焦点, 格, 文法関係

:: **格**: 接語 to= は, 動作主態の構文において被動者を示すのに使われる (4) ほか, 時間などの付加語的な語句を表すのにも用いられる (5) → 動作主態は実質的に自動詞文で逆受動態

(5) Mi-payal kako **to**=dadaya (Wu 2006: 358)

動作主態-働く 1単主 **対**=夜

「私は夜に働きます」

「アミ語は本当に能格言語なのか」

今西 一太 [株式会社エス・アイ代表取締役] imanishik923@gmail.com

▶ アミ語は能格言語であるという主張

■ Wu (2006) の被動者態と動作主態の有標性の比較

・ 4つの観点: 動詞の形態, 道具焦点, 格, 文法関係

:: **文法関係:** 動作主態が実質的に自動詞文であると考えることに関連している (?)

「アミ語は本当に能格言語なのか」

今西 一太 [株式会社エス・アイ代表取締役] imanishik923@gmail.com

▶ 能格・対格性のプロトタイプと連続体

Liao (2004) の無標の2項節の基準

- ・ 動詞の標示が無標である
- ・ 談話における頻度が高い
- ・ 分布が広い（命令文などでも使用可）
- ・ 習得の順序が早い
- ・ 生産的である
- ・ 意味的な他動性が高い

Liao (2004) の基準を**すべて満たす**2項節において、能格性 (A, P=S) を示すもの

⇒能格性A, 強い定義, 狭義の能格性

Liao (2004) の基準を**多く満たす**2項節において、能格性 (A, P=S) を示すもの

⇒能格性B, 弱い定義, 広義の能格性

Liao (2004) *Transitivity and ergativity in Formosan and Philippine languages*. PhD. Thesis. University of Hawai'i.

「アミ語は本当に能格言語なのか」

今西 一太 [株式会社エス・アイ代表取締役] imanishik923@gmail.com

▶ 能格・対格性のプロトタイプと連続体

型	狭義の対格型	広義の対格型	対称的	広義の能格型	狭義の能格型
P=S	有標: 受動態	比較的有標	同程度	比較的無標	無標
A=S	無標	比較的無標	同程度	比較的有標	有標: 逆受動
					能格性A = =
				能格性B = = = = = = = =	

「アミ語は本当に能格言語なのか」

今西 一太 [株式会社エス・アイ代表取締役] imanishik923@gmail.com

▶ アミ語は能格言語であるという主張

Wu (2006) は、被動者態が無標の他動詞文で、動作主態は逆受動であり、**アミ語は能格性を持つ**と主張している。

Wu (2006) *Verb classification, case marking, and grammatical relation in Amis*. The State University of New York at Buffalo, PhD thesis.

「アミ語は本当に能格言語なのか」

今西 一太 [株式会社エス・アイ代表取締役] imanishik923@gmail.com

▶ 能格・対格性のプロトタイプと連続体

型	狭義の 対格型	広義の 対格型	対称的	広義の 能格型	狭義の 能格型
P=S	有標: 受動態	比較的有標	同程度	比較的無標	無標
A=S	無標	比較的無標	同程度	比較的有標	有標: 逆受動
					能格性A = =
				能格性B = = = = = = = =	

↑
本発表

↑
Wu (2006)

「アミ語は本当に能格言語なのか」

今西 一太 [株式会社エス・アイ代表取締役] imanishik923@gmail.com

▶ アミ語の2項節: 動作主態と被動者態の有標性の比較

[1] **動詞の標示が無標である:** 前述のように, いずれも形態的に有標なため判断不可

[2] **談話における頻度が高い:** 談話資料 Sing 'Olam 2006 による調査で, 動作主態 : 被動者態の数は 45:34 だった。この資料では, アミ語は対格言語に近いところに位置する。

[3] **分布が広い:** 特に差はない。

[4] **習得の順序が早い:** 新たな母語話者が生じている状況にないため不明とせざるを得ない。

[5] **生産的か:** どちらも生産的 (借用語にも適応される: (7a) mi-kayki 動作主態-会議 < Jpn. 会議, (7b) pa-tikami-en 使役-手紙-被動者態 < Jpn. 手紙 「手紙を書きなさい」)

[6] **意味的な他動性が高い:** 議論が難しい。被動者態の一種である -en は他動性が高いと言える。ma-, mi- に関しては, 他動性が低い場合と高い場合の両方の例がある。

⇒両者とも同程度, 基準によってはむしろ動作主態が無標

「アミ語は本当に能格言語なのか」

今西 一太 [株式会社エス・アイ代表取締役] imanishik923@gmail.com

▶ アミ語の2項節: 動作主態と被動者態の有標性の比較

[3] 分布が広い: 特に差はない。

(6) a. Pi-patay to=dadipis

命令-死 対=ゴキブリ

「そのゴキブリを殺せ」 cf. mi-patay 動作主態-死 「殺す」

b. Patay-en(=iso) ko=dadipis

死-被動者態=2単属 主=ゴキブリ

「そのゴキブリを殺せ」 cf. patay-en 死-被動者態 「殺される、殺されろ」

動作者態, 被動者態どちらも命令文で使用できる。

「アミ語は本当に能格言語なのか」

今西 一太 [株式会社エス・アイ代表取締役] imanishik923@gmail.com

▶ アミ語の2項節: 動作主態と被動者態の有標性の比較

[6] **意味的な他動性が高い:** 議論が難しい。被動者態の一種である -en は他動性が高いと言える。ma-, mi- に関しては, 他動性が低い場合と高い場合の両方の例がある。

-en: 被動者態

(8) Patay-en=ako ko-ra dadipis
死-被動者態=1単属 主-それ ゴキブリ
「私はそのゴキブリを殺します」

「アミ語は本当に能格言語なのか」

今西 一太 [株式会社エス・アイ代表取締役] imanishik923@gmail.com

▶ アミ語の2項節: 動作主態と被動者態の有標性の比較

[6] **意味的な他動性が高い:** 議論が難しい。被動者態の一種である -en は他動性が高いと言える。ma-, mi- に関しては, 他動性が低い場合と高い場合の両方の例がある。

ma-: 被動者態

(9) a. Ma-patay=to ningra ko-ra dadipis
被動者態-死=完了 3単属 主-それ ゴキブリ

「彼はそのゴキブリを殺した」

b. Ma-patay=to ko-ra dadipis
被動者態-死=完了 主-それ ゴキブリ

「そのゴキブリはもう死んでいる」

「アミ語は本当に能格言語なのか」

今西 一太 [株式会社エス・アイ代表取締役] imanishik923@gmail.com

▶ アミ語の2項節: 動作主態と被動者態の有標性の比較

[6] **意味的な他動性が高い:** 議論が難しい。被動者態の一種である -en は他動性が高いと言える。ma-, mi- に関しては, 他動性が低い場合と高い場合の両方の例がある。

mi-: 動作主態

(10) a. Mi-pacok ko-ra tamdaw to=fafoy
 動作主態-屠殺 主-それ 人 対=豚

「その人は豚を殺した」

b. Mi-dangoy kako
 動作主態-水泳 1単主

「私は泳いだ」

「アミ語は本当に能格言語なのか」

今西 一太 [株式会社エス・アイ代表取締役] imanishik923@gmail.com

▶ 主張

[1] 無標の2項節をどのように定義し、各基準をどれくらい重要視するかで、アミ語が能格性を持つかどうかの分析は変わる。

[2] 少なくともアミ語が「狭義の能格性」を持っているということはない。「能格性」「無標の2項節」の定義によって、「広義の能格性」を持っているか、あるいは能格性をほぼ・全く持っていない (つまり対照的な言語である) のどちらかであると言える。

「アミ語が能格性を持つかどうか」という議論自体にあまり意味はない。アミ語が能格性を持つ言語とどのような共通点を持っており、その共通点に注目することでアミ語や能格言語に関するどのような事実が明らかになるのかという点が重要である。

「アミ語は本当に能格言語なのか」

今西 一太 [株式会社エス・アイ代表取締役] imanishik923@gmail.com

▶ 会場からの意見

・ Liao (2004) の基準がいくつかあるが、アミ語におけるそれらの分析が不明瞭である。主成分分析などで、客観的にどのような傾向があるか確かめたらどうか。

言語類型論の諸問題に対する帰納的アプローチ — 『語学研究所論集』 特集データを活用して—

企画者・司会: 風間 伸次郎, **コメンテータ:** 山本 恭裕
発表者: 岡本 進, 風間 伸次郎, 小林 剛士, 小林 颯

- ▶ 『語学研究所論集』：諸言語について10のテーマ（受動表現, アスペクト, モダリティ, ヴォイスとその周辺, 所有・存在表現, 他動性, 連用修飾的複文, 情報構造と名詞述語文, 情報標示の諸要素, 否定, 形容詞と連体修飾複文）について特集データを集積（2009～）, 未着手の言語の補遺データの蓄積（2020～）
- ▶ 現在の言語数は79言語 ⇒ 100前後に (?)
- ▶ 類型論的研究の土台としてはまだ地域や系統などのバリエーションが不足
- ▶ 今回のワークショップでは, 収集したデータを用いて類型論上の4つの問題についての仮説を提案し, 『語学研究所論集』の活用可能性を示した。

言語類型論の諸問題に対する帰納的アプローチ — 『語学研究所論集』 特集データを活用して —

企画者・司会: 風間 伸次郎, **コメンテータ:** 山本 恭裕
発表者: 岡本 進, 風間 伸次郎, 小林 剛士, 小林 颯

[発表1] 自他交替とヴォイスの相関についての類型論的考察

岡本 進 (東京外国語大学)

- **方法:** 自他交替のパタンによって56の対象言語を①他動化, ②非他動化, ③中立(両極), ④不安定動詞(自他両形) に分類する。それぞれの形態的手法が使役や再帰, 受動の態の形式と同じ (連続している) かに注目しさらに下位分類する。
- **仮説:** ヨーロッパでは非他動化と再帰が, ユーラシア大陸 (アルタイ諸言語と朝鮮語) では非他動化と受動がそれぞれ連続する。不安定動詞は地域に関わらず, 孤立型の言語で用いられている。

言語類型論の諸問題に対する帰納的アプローチ — 『語学研究所論集』 特集データを活用して —

企画者・司会: 風間 伸次郎, **コメンテータ:** 山本 恭裕
発表者: 岡本 進, 風間 伸次郎, 小林 剛士, 小林 颯

[発表2] アスペクトと動詞連続に関する類型論的考察

風間 伸次郎 (東京外国語大学)

- **方法:** 43の対象言語によって、先行研究における2つの仮説を検証する: アスペクトの下位分類, 恒常的真理を示す形式が無標。次に、動詞連続のタイプを①副動詞形使用/非使用, ②接続詞の使用/非使用という観点から分類する。
- **結果:** アスペクト下位分類は要再検討, 恒常的真理を示す形式は無標でない
- **仮説:** 副動詞形は文末の動詞に対する相対的な関係を示すのみなので、関係の種類によって異なる副動詞形が必要となる。しかし、屈折型の言語では人称などが十分に標示できる定動詞を用いるので機能的な負担の少ない1つの接続詞を用いる傾向にある。

言語類型論の諸問題に対する帰納的アプローチ — 『語学研究所論集』 特集データを活用して —

企画者・司会: 風間 伸次郎, **コメンテータ:** 山本 恭裕
発表者: 岡本 進, 風間 伸次郎, 小林 剛士, 小林 颯

[発表3] とりたてに関する類型論的考察

小林 剛士 (東京外国語大学博士後期課程)

- **方法:** 49の対象言語によって、とりたて表現における文構造の交替（通常、移動、分裂文）を調査
- **結果:** 語順・格の有無が相関、限定では主に分裂文、極端では分裂文はなく移動が多少ある、分裂文を使う言語は限定にもっぱらこれを用いる、移動を使う言語はこれを限定にも極端にも用いる。
- **仮説:** 限定と極端の振舞いの違い、分裂文と移動の分布の違いを説明する2種類の類型論上の仮説を提案した。

言語類型論の諸問題に対する帰納的アプローチ — 『語学研究所論集』 特集データを活用して —

企画者・司会: 風間 伸次郎, **コメンテータ:** 山本 恭裕
発表者: 岡本 進, 風間 伸次郎, 小林 剛士, 小林 颯

[発表4] 連体修飾に関する類型論的考察

小林 颯 (東京外国語大学博士前期課程)

- **方法:** 38の対象言語を, 連体修飾文のデータの分析し, それぞれの対象言語を ① 関係詞優勢, ②空所一貫型に分類した。併せて, 対象言語における無生物主語の許容/非許容を調べた。
- **仮説:** 無生物主語を許容する言語は関係詞優勢型による連体修飾節を形成し, 無生物主語を許容しない言語は空所一貫型による連体修飾節を形成する傾向にある。

言語類型論の諸問題に対する帰納的アプローチ — 『語学研究所論集』 特集データを活用して —

企画者・司会: 風間 伸次郎, **コメンテータ:** 山本 恭裕
発表者: 岡本 進, 風間 伸次郎, 小林 剛士, 小林 颯

コメンテータによるコメント

- ▶ 特集データは構文バリエーションの通言語比較など、言語内部の複雑さを考慮した言語比較に利用可能
- ▶ 言語の背景知識や情報が限定的な（あるいは乏しい）ため、構文の正確な特徴づけや分類が難しい
- ▶ 特集データのみから結論を作るのではなく、参照文法などの文献を参照しながら利用することが必要か

Grambank... 195の言語特徴について言語ごとに特徴づけ, 2467言語, 0か1による特徴づけは言語内部の複雑さを捉えられていない可能性

特集データ... 翻訳タスクを使用した調査票により言語表現を収集・記録, 79言語, 言語レベルでの特徴づけは基本的になく、句や文のレベルの様々な構文を記録

⇒構文レベルでの言語間比較が可能。意味地図などを用いた言語内の構文分布も比較できる

言語類型論の諸問題に対する帰納的アプローチ — 『語学研究所論集』 特集データを活用して —

企画者・司会: 風間 伸次郎, **コメンテータ:** 山本 恭裕
発表者: 岡本 進, 風間 伸次郎, 小林 剛士, 小林 颯

▶ 会場からのコメント

- (恒常的真理を表す構文に「地球は太陽の周りを回っている」, 「海水は塩分を含んでいる」, 「1に1を足せば2になる」があることについて) 例えばニューギニア高地の日常はこれらの概念から離れているわけであるが、そのような場合どうするのか?
- WALS, Grambank には多くの専門家が関わっており、参照文法への誘導も付いている。『語学研究所論集』の売りとは?
⇒ 記述文法は言語の特異性を強調しがちでそれぞれのうちで語彙や表現が一貫していない, 『語学研究所論集』では統一された語彙や表現, 文体で比較することができる。
- イタリア語が不安定動詞・不連続型で英語と同じカテゴリーにあるのは違和感がある [発表1 にたいして]

次回 (第168回) の言語学会

- ▶ 日程: 2024年6月29日 (土) ・ 30日 (日)
- ▶ 会場: 国際基督教大学
- ▶ 発表応募締切: **2024年3月20日 (水) 必着**

ご清聴ありがとうございました

